日本赤十字社 広島県支部
Japanese Red Cross Society

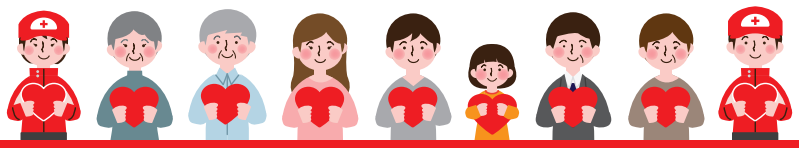
HIROSHIMA RED CROSS
ACTIVITY REPORT 2024-2025

写真：「能登半島地震」避難されている方と赤十字救護班（七尾市中島地区コミュニティセンター）

令和６年度　日本赤十字社 広島県支部

事業報告書

今年度も皆さまからお寄せいただいた赤十字活動資金により
「いのちを救う活動」をはじめとする様々な活動を実施することができました。



皆さまのあたたかいご支援に、心から感謝申し上げます

TOPICS 1 被災地での災害救護活動を展開

令和6年能登半島地震にかかる広島県支部の対応

令和6年1月1日に石川県能登地方を震源とした令和6年能登半島地震が発生。日本赤十字社広島県支部は、1月3日に災害対策本部を設置し、1月9日より救護班を派遣。コーディネートチームを4班（延べ71名）、救護班を5班（延べ162名）、こころのケア班を2班（延べ15名）、病院等業務支援として看護師を2班（延べ18名）派遣し、救護活動等を実施しました。

TOPICS 2 広島県内の学生12名がカンボジアへ!

日本赤十字社広島県支部・カンボジア赤十字社 ユース相互交流事業　令和7年度始動に向けた準備

世界191の国と地域に広がる赤十字ネットワークを活用し、広島県の学生に国際的な学びの機会を提供しています。日本赤十字社広島県支部は、カンボジア赤十字社との共同プロジェクトとして学生を対象とした「ユース相互交流事業」を計画。テーマは「平和」「気候変動」「災害対応」で、国際交流を通じて豊かな心を育むことを目的としています。

TOPICS 3 「あの日」の広島の凄惨な真実を伝える

核兵器禁止条約第3回締約国会議へ参加

日本赤十字社広島県支部の職員が、3月3日～7日にアメリカ・ニューヨークの国連本部で開催された、核兵器禁止条約(TPNW)第3回締約国会議に参加。職員は会議の場で、「あの日」の広島の凄惨な真実を伝え、議長国であるカザフスタンの赤新月社の職員と共に「国際赤十字・赤新月運動全体として核兵器のない未来に向けて引き続き尽力する」という声明文を読み上げました。赤十字は「核兵器禁止」の声が世界で高まることを願い、赤十字のネットワークやツールを生かして、核兵器の非人道性について広く訴えかけ、国際人道法の普及を進めていきます。

TOPICS 4 持続可能な社会を目指す森林づくり事業

にっせきの森創成事業
始動に向けた準備

激甚化する猛暑や水害など、多くの人々の脅威となっている気候変動。日本赤十字社広島県支部では、未来を担う子どもたちに気候変動・環境問題への関心を高め、気候変動の適応または緩和につながる事業として、新たな森林づくり事業の準備を進めています。この事業は、森の最適化や、森林に親しみ緑の育成を行う活動をしている2つの団体と協同でそれぞれが持つリソースを出し合い、企業サポーターやJRC関係者、奉仕団などの協力を仰ぎ、進めて参ります。

CONTENTS

02 TOPICS
04 国内災害救護活動
12 国際活動
16 医療事業
18 看護師等養成事業
19 血液事業
20 講習普及事業
22 赤十字ボランティア
23 会員と活動資金
24 遺贈、相続財産
25 遺贈相続セミナー
26 赤十字思想の普及・広報
27 令和6年度 決算報告

国内災害救護活動

災害時に必要とされる救護を円滑に行うため、
訓練、物資の整備、人材育成など、常に災害に対応できる体制を作ります。
災害時にはいち早く救護班などを派遣し、救護活動を行います。

日本赤十字社は、日本赤十字社法及び災害対策基本法や災害救助法に定める
災害救護団体として災害救護活動を実施しています。

令和6年度広島県総合防災訓練の様子

救護訓練・研修会

迅速・的確な災害救護活動を実施できるよう、広島県内で行われた救護合同訓練に参加し、大規模災害の発生に備え、関係機関との連携強化、対処能力の向上を図りました。

救護訓練参加状況

名称	日程	場所	人数
広島市総合防災訓練	令和6年8月30日	広島市	中止
広島県総合防災訓練	令和6年10月5日	呉市	15
旅客船事故対応合同訓練	令和6年10月30日	尾道市	10
日本赤十字社第5ブロック合同災害救護訓練（小規模訓練）	令和6年11月8日・9日	山口県	3

救護研修会実施・参加状況

名称	日程	場所	人数
救護員基礎研修会	令和6年6月4日	三原赤十字病院	13
救護員基礎研修会	令和6年6月15日	広島赤十字・原爆病院	26
救護員実践研修会	令和6年9月13日・14日	広島県支部・看護大学	24
日赤災害医療コーディネート研修会	令和6年11月23日・24日	本社	4
都道府県災害医療コーディネーター研修	令和6年10月27日	東京	1
原子力災害時の救護研修	令和6年12月7日・8日	鹿児島	1
こころのケア指導者養成研修会	令和6年10月9日・10日	本社	1
こころのケア要員研修会	令和6年8月3日	三原赤十字病院	4
こころのケア要員研修会	令和6年12月19日	広島赤十字・原爆病院	15
日赤災害医療コーディネートフォローアップ研修	令和6年2月15日	本社（web）	16
全国赤十字救護班研修	令和7年2月22日・23日	広島県支部血液センター	16

救護員基礎研修会（広島赤十字・原爆病院主催）

救護員実践研修会（支部主催）

左／緊急セット　右／安眠セット

被災者の支援

災害（火災等）に備え、毛布や緊急セット等の救援物資を備蓄しており、
要請に応じて被災者へ配布しました。

救援物資備蓄状況

備蓄場所	毛布（枚）	緊急セット（セット）	バスタオル（枚）	安眠セット（セット）	タオルケット（枚）	寝衣（着）	
						大人	子供
広島県支部	3,447	3,018	205	398	552	105	257
庄原赤十字病院	550	300	–	–	–	–	–
三原赤十字病院	900	246	–	–	–	–	–
日本赤十字広島看護大学	996	–	–	–	–	–	–
合計	5,893	3,564	205	398	552	105	257

災害救助物資保管倉庫（庄原赤十字病院）

災害救助物資保管倉庫（三原赤十字病院）

救援物資配布状況　（県内で発生した災害（火災等）の被災者へ地区分区を通じ救援物資を配布）

被災世帯数	被災者数（人）	毛布（枚）	緊急セット（セット）	バスタオル（枚）	安眠セット（セット）	タオルケット（枚）	寝衣（着）	
							大人	子供
30	61	53	22	54	47	0	53	2

左／三原赤十字病院に配備されたエアーテント（贈 協和鉱業株式会社）　右／災害救援車（支部）

災害救援用資器材等の整備

日本赤十字社では、災害時において電気・水道等のライフラインが停止した場合に備え、必要とする電気・燃料・食糧等の物資はすべて自分たちで用意する自己完結型の救護活動を原則としており、各種の資器材を平時から備えています。また、災害時に迅速かつ多様な活動ができるよう災害救援車両を各種整備しています。令和6年度に協和鉱業株式会社様からご寄贈いただいたエアーテントは、三原赤十字病院に配備しました。このテントは、救護所を迅速に設営する際に役立ちます。

主要救護用資器材等保有状況

名称		数量
業務用無線（150MHz）	基地局	4局
	移動局	48局
業務用無線（400MHz）	基地局	1局
	移動局	27局
アマチュア無線局		1局
衛星携帯電話		7台
折りたたみ式リヤカー		1台
トリアージテント		3張

名称	数量
パイプテント	12張
ワンタッチテント	3張
エアーテント	5張
ドラッシュテント	3張
リフトテント	1張
炊出し釜	3個
担架	70台
発電機	6台

名称	数量
投光機（ﾊﾞﾙｰﾝ・LED）	4台
簡易トイレ	25個
医療セット	4セット
折畳寝台	90台

災害救援車両

名称	数量（台）
通信指令車	1
dERU（国内型緊急対応ユニット）	1
救急車	4
災害救援車（赤十字施設）	9

左／三原赤十字病院に配備されたエアーテント（贈 協和鉱業株式会社）　中央／災害救援車（支部）　右／移動式炊き出し用かまど

地区・分区における災害救援車両や資器材の整備

地区・分区内での災害救護活動に使用するため、災害救援車両を2台更新整備しました。
（三次市地区、海田町分区）

災害救援車両及び資器材整備状況

地区・分区名	車両（台）	テント（張）	炊出し釜（個）
広島市 中区	1	–	1
広島市 東区	1	1	1
広島市 南区	1	1	1
広島市 西区	1	1	1
広島市 安佐南区	–	–	1
広島市 安佐北区	1	3	1
広島市 安芸区	1	2	2
広島市 佐伯区	1	3	3
呉市	1	13	1
竹原市	1	2	1
三原市	1	13	1
尾道市	1	10	6
福山市	1	9	4
府中市	1	2	1
三次市	1	20	4
庄原市	1	11	1
大竹市	1	2	3

地区・分区名	車両（台）	テント（張）	炊出し釜（個）
東広島市	3	11	2
廿日市市	2	8	2
安芸高田市	1	19	2
江田島市	1	6	1
海田町	1	5	3
府中町	–	2	3
熊野町	–	4	1
坂町	1	3	1
安芸太田町	–	6	2
北広島町	2	7	1
大崎上島町	1	7	1
世羅町	1	6	2
神石高原町	–	6	–
合計	29	183	54

令和6年能登半島地震災害義援金　七尾市立小丸山小学校にて健康観察を行う様子

義援金・救援金の受付

日本赤十字社では、災害や紛争、病気に苦しむ方々の支援を行うため、国内義援金や海外救援金を受け付けています。国内義援金は、被災都道府県に設置される義援金配分委員会へ全額をお送りし、同委員会で定める配分基準に従って、市区町村等の自治体へ配分され、被災地の方々の生活支援に役立てられます。また、海外救援金は、被災国の赤十字社が実施する被災者支援活動に使われます。令和6年度における受付状況は以下のとおりです。

義援金受付状況

名称	件数（件）	金額（円）
令和6年7月25日からの大雨災害義援金	82	724,230
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	223	12,774,832
令和6年度沖縄県北部豪雨災害義援金	33	314,139
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	38	1,578,138
令和6年能登半島地震災害義援金	636	29,985,493
合計	1,012	45,376,832

海外救援金受付状況

名称	件数（件）	金額（円）
イスラエル・ガザ人道危機救援金	39	174,661
ウクライナ人道危機救援金	74	777,272
バングラデシュ南部避難民救援金	9	12,000
レバノン人道危機救援金	6	35,523
中東人道危機救援金	9	12,000
2024年台湾東部沖地震救援金	54	2,566,918
アフガニスタン人道危機救援金	5	10,893
無指定海外救援金	5	82,800
合計	201	3,672,067

宗教法人法龍寺さま イスラエル・ガザ人道危機救援金ご寄付

募金箱

1

2

3

※令和6年度の開催はございません

4

5

防災教育事業の実施

赤十字防災セミナーの開催

日本赤十字社防災教育事業として、赤十字防災セミナーは地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高めることを目的として実施しています。

1 カリキュラム
災害への備え（講義）
回数 17回　受講者 180人

災害・防災についての考え方や地震・大雨災害など災害別の想定被害等から平時の備えの重要性を理解する。

2 カリキュラム
災害エスノグラフィー
回数 4回　受講者 22人

大規模災害の被災者の経験談を通じて、災害を追体験することで被災の具体的なイメージを理解する。

3 カリキュラム
災害図上訓練（DIG）
※令和6年度の開催はございません

地域の防災マップの作成を通じて、防災上の資源や危険箇所等を把握・理解し、個人や地域での防災対策の実施につなげる。

4 カリキュラム
家具安全対策（KAG）
回数 7回　受講者 269人

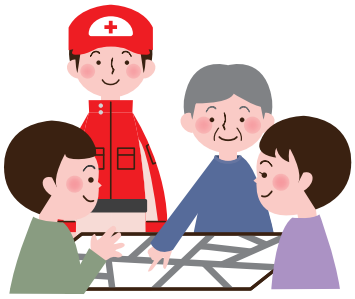
自宅（部屋）の平面図を描くゲームを通じて、自身で起こる被害や危険な場所を把握し、家具の安全対策の必要性を理解する。

5 カリキュラム
ひなんじょたいけん
回数 4回　受講者 50人

避難所を作るカードゲームを通じて、大地震後の避難所生活の一部を体験し、「被災者の目線で心がける要点」を理解する。

防災教育事業指導者養成研修の開催

県内で防災や減災に関する知識を普及する指導者の育成が必要であることから、「赤十字防災セミナー」を運営する上で、十分な知識・技術を有することはもちろんのこと、事業運営に自発的・積極的に協力いただけることに主眼を置き、指導者養成研修を開催し、13名の指導者を養成しました。



ウクライナ赤十字社の事務総長・副事務総長、広島を訪問

国際活動

世界中の災害や紛争、病気などに苦しむ人々を救うため、
世界最大の赤十字のネットワークを活かして、
緊急時の救援や復興支援、予防活動に取り組みます。

日本赤十字社は、国際赤十字の一員として世界191の国と地域の赤十字・赤新月社やジュネーブにある赤十字の国際機関とともに、緊急救援・復興支援や開発協力等を実施しています。広島県支部においても、こうした国際活動に貢献すべく、ユースや職員が主体となって国際的な理解と協力の促進事業に取り組んでいます。

交流予定の高校（サムタック・ア・ハイスクール）

日本赤十字社広島県支部・カンボジア赤十字社ユース相互交流事業

カンボジア赤十字社との共同により異文化交流や各国のボランティア活動を通じて、参加者が国際的な視野をもって広く物事を見聞きし、課題発見能力や解決方法を見出す（考える）力を醸成します。また、二国間の参加者同士の相互コミュニティを形成することで、自律的な活動となるような仕組みを構築することを目的としています。本事業は、5年間の継続的な取り組みとしており、隔年での受け入れを相互に行い、両国の理解を深めながら持続可能なユース交流を構築していきます。2025年8月には、県内高校生10名と広島県青年赤十字奉仕団の大学生2名とカンボジアでの6日間の研修を行います。

▶▶ 第1回現地訪問（2024年8月）

派遣者	広島県支部職員2名
目　的	事業開始に向けた基礎的準備として、関係各所への表敬訪問及び活動候補地（シェムリアップ市内）の視察。
主な訪問先	カンボジア赤十字社本社及びシェムリアップ支部、訪問予定学校他。

カンボジア赤十字社表敬訪問

▶▶ 第2回訪問（2024年12月）

派遣者	広島県支部職員3名
目　的	本事業の実施に関する正式な合意を得るため、両団体間での協定書の調印の実施。
内　容	調印式。今後の具体的な交流事業スケジュール及びプログラム内容に関する協議。

調印式の様子

担当者ミーティングの様子

レイドクロスの様子

国際活動体験ツアー in Hiroshima 2024

赤十字の国際活動について職員や看護学生が理解を深め、将来の国際救援・開発協力要員（以下、「要員」という。）の育成と発掘を目指し、赤十字の国際的な支援活動や広島県支部の取り組み、派遣経験者による実体験の共有などを通じて、広島から世界への貢献を目指す人材の育成を進めています。また、国際人道法の基本的な考え方をロールプレイ形式で体験できる「レイドクロス」にも取り組み、紛争下における人道的配慮の重要性について理解を深めました。

レイドクロスの様子

国際救援・開発協力要員の登録状況

日本赤十字社では、海外で発生した災害や保健衛生事業に従事するための要員を常時登録しています。

県内登録状況

（2025年4月現在）（単位：人）

施設名	医師	看護師	薬剤師	事務	合計
日本赤十字社広島県支部	0	0	0	3	3
広島赤十字・原爆病院	2	0	1	0	3
広島県赤十字血液センター	0	0	0	1	1
合計	2	0	1	4	7

国際活動参加事業

第5ブロック及び当支部は、国際赤十字の一員として、本社が行う国際活動に係る職員の派遣、国際支援事業への財政的支援を行っています。令和6年度には、次の国際支援事業へ財政的支援を行いました。アジア・大洋州地域の災害多発国赤十字社が、給水・衛生災害対応キットを計画的に配備し、災害時に効果的に給水や衛生活動を展開できるよう各国赤十字社のスタッフ・ボランティアの研修と人材育成のための事業資金支援を行いました。

オープニングセレモニーでは園児たちが募金を持参

「NHK海外たすけあい」(第42回)キャンペーン

「NHK海外たすけあい」キャンペーンは世界各地の紛争や自然災害、病気などに苦しむ人々を救うために、日本赤十字社が昭和58年から毎年12月にNHKと共同で実施しています。支部では、広島県青年赤十字奉仕団が中心となり、青少年赤十字加盟校の生徒達とともに街頭募金活動を実施し、寄付しました。

受付状況

名称	受付期間	件数(件)	金額(円)
NHK海外たすけあいキャンペーン	12月 1日～25日	2,214	15,938,517

庄原赤十字病院スタッフ

医療事業

大切ないのちを救うために、良質な医療の提供に努めて地域医療を支えます。

県内には広島赤十字・原爆病院、庄原赤十字病院、三原赤十字病院の3つの赤十字病院があり、いずれも地域の中核病院としての役割を果たしています。近年、医療事業においては医療費削減や医師不足等、取り巻く環境は非常に厳しい状況となっていますが、各病院は地域の特性に応じたサービスと良質な医療の提供に重点をおいた事業を展開しています。

広島赤十字・原爆病院

地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院などの指定を受け、地域の基幹病院としての役割を担っています。近年、ロボット手術やがんゲノム医療の導入や抗がん剤混合調製ロボットを整備するなど、高度医療の提供に努めています。

診療科目（34科）

内科、肝臓内科、腎臓内科、血液内科、内分泌・代謝内科、脳神経内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、精神科、外科、消化器外科、血管外科、乳腺外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、リウマチ科、産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、緩和ケア内科、救急科、歯科口腔外科、病理診断科

（単位：人）

病床数		職員				入院患者		外来患者	
許可	実働	医師	看護要員	その他	計	延数	一日平均	延数	一日平均
565床	557床	192	649	411	1,252	183,190	501.9	324,035	1339.0

庄原赤十字病院

庄原赤十字病院は、広島県北東部、中国地方のほぼ中央に位置しています。「高度医療」「救急医療」「小児・周産期医療」「地域医療」の4つの医療を掲げ急性期から慢性期までの医療を担う中核病院です。また、へき地巡回診療や訪問診療、訪問看護などの在宅医療にも力を入れています。

診療科目（22科）

内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、腎臓内科、脳神経外科、小児科、外科、透析外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、神経内科、漢方・疼痛緩和科、呼吸器内科、血液内科

（単位：人）

病床数		職員				入院患者		外来患者	
許可	実働	医師	看護要員	その他	計	延数	一日平均	延数	一日平均
248床	248床	43	216	134	393	73,325	200.9	114,747	474.2

三原赤十字病院

三原赤十字病院は、消化器内科と外科を統合し、総合的に消化器疾患に対応できる消化器センターを開設するとともに整形外科の充実により、手術からリハビリ・在宅診療までのシームレス化を図りました。また、歯科口腔外科及び下肢静脈瘤、睡眠時無呼吸症候群の専門外来などから必要とされる医療を推進するほか、近隣医療機関との連携を一層深め、地域医療に密着した医療の提供を行いました。

診療科目（21科）

内科、呼吸器内科、肝臓内科、循環器内科、消化器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リウマチ科、リハビリテーション科、緩和ケア外科、歯科口腔外科

（単位：人）

病床数		職員				入院患者		外来患者	
許可	実働	医師	看護要員	その他	計	延数	一日平均	延数	一日平均
232床	184床	31	157	101	289	53,955	147.8	102,917	388.4

看護師等養成事業

医療・看護の担い手を育てます。

日本赤十字広島看護大学は、赤十字の中国・四国ブロックにおける拠点校として、国内外の保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害救護や国際救援、教育・研究現場等様々な場において活躍できる看護師等の養成を行っています。

在籍状況

赤十字の人道の理念を基調とした教育と人々の命と権利を尊重することを基本とした「ヒューマンケアリング」の精神のもとに、豊かな人間性と幅広い教養を身につけた人材育成に努めています。

学年別在籍状況

※令和6年度末現在（単位：人）

1学年	2学年	3学年	4学年	大学院	合計
135	138	131	122	28	554

日本赤十字広島看護大学

基礎看護学演習

進路状況

卒業後は、看護師・助産師・保健師などの国家資格を活かし、各地の赤十字病院をはじめとする医療施設や、都道府県や市町に就職し活躍しています。

学部卒業生進路状況

（単位：人）

卒業生	就職				進学	その他
	赤十字の医療施設	国公立系の医療施設	公的医療施設	その他の病院等		
120	56	9	37	7	6	5

災害看護学演習

血液事業

献血の普及、血液製剤の製造、医療機関への供給を行っています。

血液センターでは十分な感染予防対策や献血会場の安全性の確保対策を講じたうえで、献血協力団体等の皆さまに、献血実施の安全性及び国民の生命を支える献血の必要性についてご理解をいただいております。また、SNSを活用したタイムリーな広報を行うとともに献血WEB会員を募集し協力の要請や献血会場における混雑回避のための献血予約の推進を行っています。

献血実績 (単位:人)

200mL献血	400mL献血	成分献血	合計
755	76,090	41,219	118,064

供給実績 (単位:本)

200mL由来		400mL由来		成分由来		合計
赤血球製剤	血漿製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	血漿製剤	
760	84	72,123	7,694	25,053	4,010	109,724

献血思想の普及

「愛の血液助け合い運動」

毎年7月の1ヶ月間、厚生労働省・各都道府県及び日本赤十字社が主催して全国一斉に「愛の血液助け合い運動」を実施しています。この運動の一環として、「令和6年度広島県献血推進功労者等表彰伝達式―献血感謝のつどい―」を令和6年8月1日(木)に開催し、献血運動の推進に関し積極的に協力し、他の模範となる実績を示した35団体15名の人に対し献血功労者表彰・感謝状を贈呈しました。また、県内の中学生・高校生を対象に献血について関心を深めてもらうことを目的に献血推進ポスターを募集し、応募のあった献血推進ポスター138点の中から入選作品16点を表彰しました。

「はたちの献血」キャンペーン

1月1日から2月末日までの2ヶ月間、「はたち」の若者を中心に、広く国民に献血への理解と協力を求めることを目的に「はたちの献血」キャンペーンを実施しました。

第25回広島県献血推進ポスター最優秀賞
東広島市立八本松中学校 伊藤美紅さんの作品

講習普及事業

**身近な人を救うため、とっさの手当てや日常生活での事故防止など
健康安全に関する知識・技術の普及と啓発を行います。**

地域住民の健康と安全を守る救急法等の講習を一般の方に広く普及するため、
地域をはじめ企業や学校等に対して実施しました。

心肺蘇生法の実技実習

救急法

病気、けがや災害から自分自身を守るとともに、けが人や急病人を正しく救助して医師又は救急隊員等に引き継ぐまでの救命手当（心肺蘇生、AEDによる除細動、気道異物除去等）や応急手当（止血の仕方、三角巾の使い方、骨折の固定方法等）の知識や技術を普及することを目的とした講習を支部、地域や職場、学校等で実施しました。

講習実施状況（救急法）

（単位：人）

名称	回数（回）	受講者	修了者	認定者
基礎講習	94	2,036	2,029	–
救急員養成講習	32	857	–	830
短期講習	367	13,466	–	–
合計	493	16,359		

着衣泳の実技実習

水上安全法

水の事故から生命を守るための、自己保全（着衣泳やライフジャケットの着用）、溺者の救助、救命・応急手当等、水難救助に関する総合的な知識と技術を普及することを目的とした講習を支部、地域や職場、学校等で実施しました。

講習実施状況（水上安全法）

（単位：人）

名称	回数（回）	受講者	修了者	認定者
救助員養成講習Ⅰ	6	53	53	53
救助員養成講習Ⅱ	1	14	14	14
短期講習	45	1,474	–	–
うち着衣泳短期講習	8	373	–	–
合計	52	1,541		

乳幼児への心肺蘇生実技実習

幼児安全法

子どもが家庭や地域で健やかに育っていくよう、子どもの成長・発達に伴う事故の予防と急病の対応及び万一に備えての救命・応急手当の知識や技術を普及することを目的とした講習を支部、地域や職場、保育所等で実施しました。また、避難所における不自由な生活から乳幼児と保護者の不安を軽減し、健康と安全を守るために避難生活支援講習を実施しました。

講習実施状況（幼児安全法）

（単位：人）

名称	回数（回）	受講者	修了者	認定者
支援員養成	6	77	76	76
短期講習	298	6,985	–	–
うち避難生活支援講習	1	13	–	–
合計	304	7,062		

車いす介助の実技実習

健康生活支援講習

高齢期を健やかに事故なく過ごすために必要な知識・技術、高齢者自立支援に必要な介護技術等を普及することを目的とした講習を支部、地域等で実施しました。また、避難所における不自由な生活から高齢者を守るために知っておきたい知識や支援技術について学ぶ避難生活支援講習や、認知症について正しく理解し認知症の方へのいたわりの態度や危険予防について地域で支える認知症講習を実施しました。

講習実施状況（健康生活支援講習）

（単位：人）

名称	回数（回）	受講者	修了者	認定者
支援員養成講習	4	15	14	14
短期講習	40	1,287	–	–
うち避難生活支援講習	33	1,111	–	–
うち認知症短期講習	2	63	–	–
合計	44	1,302		

令和6年度 中国・四国ブロック赤十字奉仕団協議会

赤十字ボランティア

「困っている・苦しんでいる人の役に立ちたい」という思いを持った仲間が、その思いを結集し、全国でさまざまな赤十字活動を行っています。

赤十字ボランティアには、グループで活動しているボランティアと個人で活動しているボランティアがいます。グループで活動しているボランティアは、市区町村ごとに組織された「地域赤十字奉仕団」、おおむね18～30歳の社会人や学生などで組織された「青年赤十字奉仕団」、さまざまな専門技術や職業を活かして活動する「特殊赤十字奉仕団」の3つの種類があります。県内に合わせて29団体組織されています。個人で活動しているボランティアは、日本赤十字社の本社、各都道府県支部、赤十字病院、赤十字血液センター、献血ルーム、社会福祉施設などの各施設で活動しています。赤十字奉仕団は、赤十字の人道・博愛の精神に基づき、明るく住みよい社会を築き上げていくために様々なボランティア活動を展開しています。令和6年度は、各種奉仕団の連携強化や活動の充実を図るため、委員会や研修会等を実施しました。

委員会・研修会等実施状況

名称	日程	場所	人数
青年赤十字奉仕団全国協議会	5月11日	本社	1人
赤十字奉仕団中央委員会	5月30日～31日	本社	1人
広島県赤十字奉仕団委員長会議	6月25日	広島県支部	17人
広島県赤十字奉仕団委員長会議	1月27日	広島県支部	15人
第5ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会	6月8日～9日	徳島県	2人
全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会・第一回役員会	7月10日～11日	本社	2人
第5ブロック赤十字奉仕団協議会	9月24日～25日	広島県支部	1人
第5ブロック赤十字奉仕団研修会	10月17日～18日	徳島県支部	2人
中四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団協議会・研修会	10月24日～25日	鳥取県	4人
広島県赤十字大会	10月26日	広島YMCA	24人
赤十字ボランティア基礎研修会	12月14日	広島県支部	16人
全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会・第二回役員会	3月11日～12日	本社	1人

赤十字ボランティア基礎研修会の様子

会員と活動資金

日本赤十字社広島県支部が行う活動は、赤十字会員及び赤十字活動に賛同する方々からお寄せいただく活動資金（会費と寄付）で支えられています。

災害時の被災者救護や新型コロナウイルスなどの感染症拡大防止への対応、防災・減災の普及啓発やボランティアの育成など、日本赤十字社のいのちを救うさまざまな活動は、皆さまからの継続的なご支援に支えられています。活動資金については、近年、クレジットカードやAmazon Payなどインターネットによる新たな募集方法も推進しています。

地域別活動資金募集状況

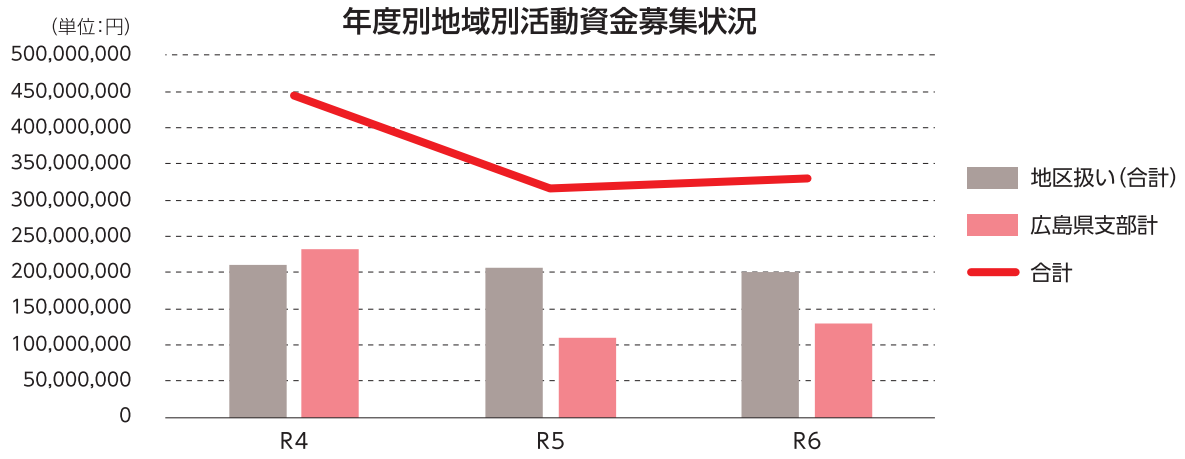
（単位：円）

区分	一般	法人	合計
各地区・分区計	199,177,626	1,982,833	201,160,459
広島県支部計	76,108,776	52,828,293	128,937,069
合計	275,286,402	54,811,126	330,097,528

年度別地域別活動資金募集状況

（単位：円）

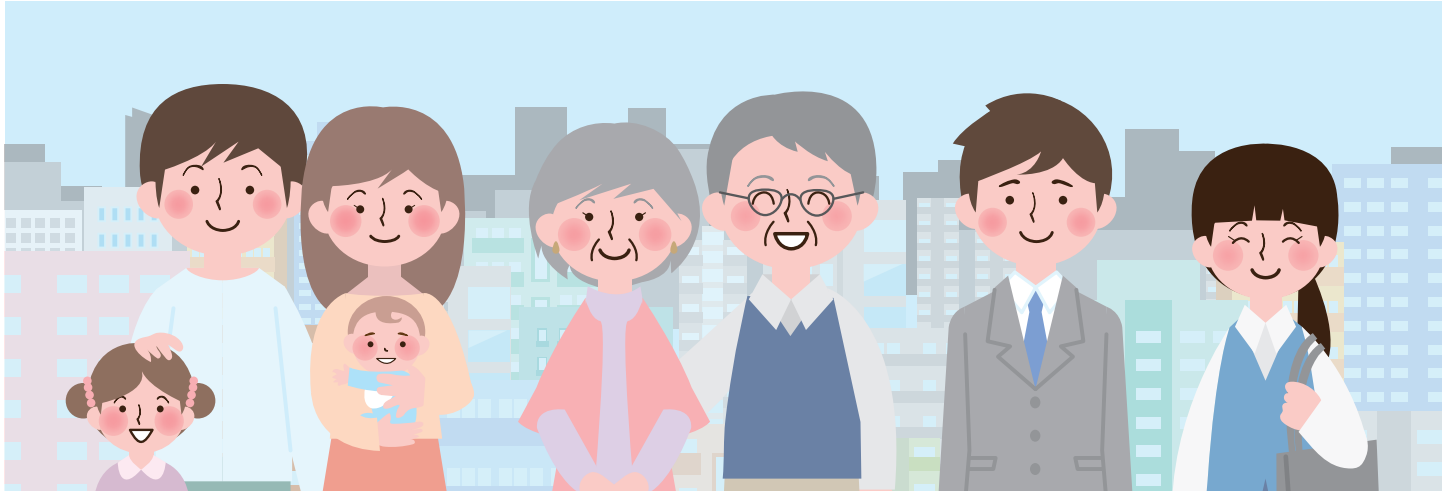
区分	R4	R5	R6
地区扱い（合計）	211,623,644	206,017,239	201,160,459
広島県支部計	232,748,331	110,026,471	128,937,069
合計	444,371,975	316,043,710	330,097,528



クレジットカードやAmazon Payの推進

（単位：件）

決済方法	R4	R5	R6
クレジットカード決済	786	958	1,047
Amazon Pay	0	105	143
口座振替	1,197	1,162	1,116



遺贈、相続財産

「生前整理による寄付」「遺贈」「相続財産等の寄付」をお考えの方へ。

近年、「生前整理の一環として、寄付を通して社会貢献をしたい。」または「自分の財産や故人の遺産を、社会のため役立ててほしい。」という、お申し出をいただくことがあります。日本赤十字社では、このような尊いおこころざしにお応えするため、「生前整理による寄付」や「遺贈」、「相続財産等の寄付」を承っております。

▶▶ 生前整理による寄付

生前整理による寄付とは、生前にご自身の財産整理の一環として、社会のために寄付することをいいます。

▶▶ 遺贈

遺言により、自分の財産を特定の個人や団体に与えることを「遺贈」といいます。遺言は、民法が定めている法定相続よりも優先され、遺産の受取人やその内容を指定することができます。この方法により、財産の全部または一部の受取人として日本赤十字社を指定することができます。

※日本赤十字社に遺贈いただいた財産は、相続税の課税対象になりません。

▶▶ 相続財産等の寄付

相続財産等の寄付とは、相続により取得した財産の全部または一部を故人の思いを汲んで寄付することをいいます。

税制上の優遇措置

ご遺族の方が相続された財産を相続税の申告期限内（相続開始があったことを知った日の翌日から10か月以内）に日本赤十字社に寄付した場合、ご寄付いただいた財産には相続税がかかりません（税制上の優遇措置が適用されます）。

死後に自分が築いた財産の一部を寄付したい。

財産を相続して、お金に少し余裕ができた。
せっかくなので社会のために役立てたい。

『社会に恩返しを』と話していた故人の想いを尊重したい。

日本赤十字社では、遺贈や相続寄付の手順をまとめたパンフレットをご用意しております。

こちらから
ご参照ください

遺贈相続セミナー

遺贈や相続の基礎を専門家から学び、
遺産を社会貢献につなげる方法をお伝えしています。

令和6年度から、終活や遺贈・相続財産について考えるセミナーを開始しました。「想い」を伝える遺言書を残すことの大切さを伝えています。今年度は5回実施し、計119人の方々がセミナーを受講しました。

▶▶ 令和6年度の実施実績

2024年 9月19日(木)	参加者：一般参加者（地域住人） 受講者：28人 会　場：三井住友信託銀行広島支店	実施内容：・終活について　・相続について ・遺言について　・遺贈　・相続寄付 ・生前寄付　・日赤の事業　・表彰
2024年 12月9日(月)	参加者：一般参加者（地域住人） 受講者：16人 会　場：熊野町社会福祉協議会（熊野町分区）	実施内容：・遺贈　・相続寄付 ・生前寄付　・日赤の事業 ・表彰
2025年 1月31日(金)	参加者：社会福祉協議会 心配ごと相談員 受講者：7人 会　場：廿日市市社会福祉協議会大野事務所（廿日市市地区）	実施内容：・相続の基礎知識 ・遺言について ・成年後見人について ・遺贈について
2025年 2月14日(金)	参加者：三次市社会福祉協議会　職員 受講者：58人 会　場：三次市社会福祉協議会（三次市地区）	実施内容：・相続の基礎知識 ・遺言について ・遺贈について
2025年 3月14日(金)	参加者：廿日市市社会福祉協議会 心配ごと相談員 受講者：10人 会　場：廿日市市社会福祉協議会（廿日市市地区）	実施内容：・相続の基礎知識 ・遺言について ・遺贈について

赤十字思想の普及・広報

赤十字の理念や活動について県民に知っていただくため「赤十字運動月間」キャンペーン等の広報活動を実施します。

赤十字の理念や活動について県民の理解を深めるため、活動資金の使途について一人でも多くの方々にご理解いただけるよう、広報活動を展開しました。また、赤十字の活動を広く伝えるため、テレビやラジオなどに取り上げられるように報道機関への積極的なプレスリリースを行うとともに、SNSを活用し、より幅広い世代に向けた情報発信の推進に努めました。

▶▶ 広報資材の発行・掲出

・赤十字NEWSの発行
・活動資金募集用パンフレット
・活動資金募集用チラシの作成
・会員募集の手引きの作成
・ダイレクトメール用
　活動資金募集用パンフレット
・遺贈・相続財産寄付パンフレット
・CROSSCOMBOOKの発行
・アニュアルレポート
・赤十字サポーター加入のご案内
・赤十字運動月間（5月）
・NHK海外たすけあいキャンペーン（12月）
・ACTION!防災減災キャンペーン（3月）

▶▶ メディア広報

・CM放送（テレビ・ケーブルテレビ・ラジオ）
・パブリシティ放送「水の事故防止」「カンボジア国際交流」
・SNS（Facebook、Instagram、X）を活用した情報発信

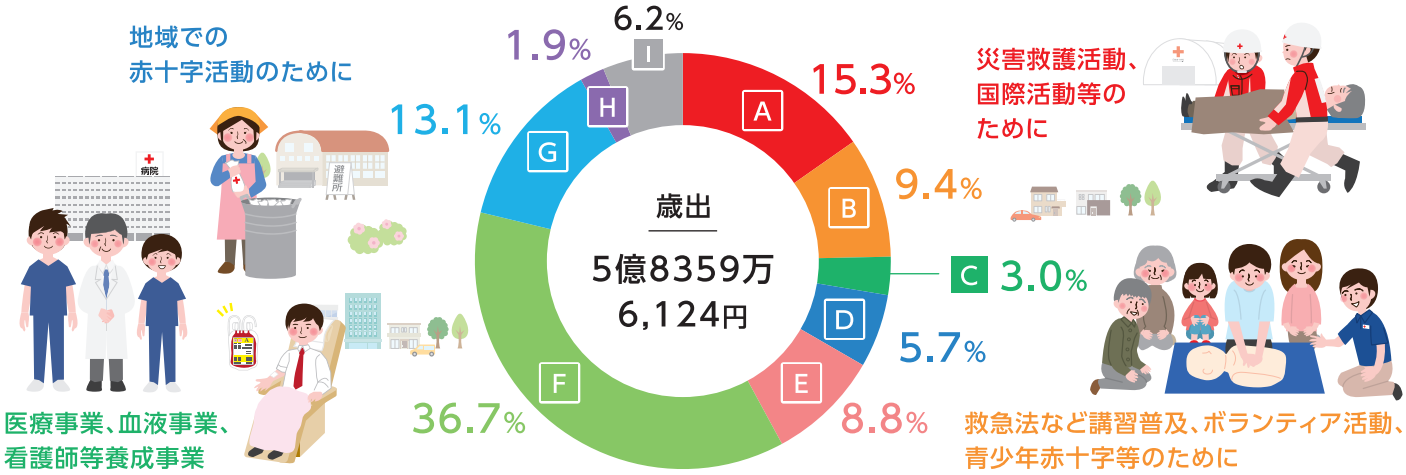
▶▶ イベント出展

過去の災害を通じて防災の大切さを幅広い世代に再認識してもらうため、試合中のマツダスタジアムや「いま動こう！みんなで防災フェス」（広島テレビ主催）「ひろでんの日2024」（広島電鉄主催）にブースを出展し、赤十字の講習、ミニ防災セミナー、救護服の試着撮影会、災害救護活動のパネル・災害救援物資の展示などを行いました。

令和6年度 決算報告 (単位:円)

歳入額	583,596,124
社資収入	330,097,528
委託金等収入	10,253,062
補助金及び交付金	7,109,675
繰入金収入	167,298,257
資産収入	25,102,400
雑収入	25,646,231
前年度繰越金	18,088,971

歳出額	547,188,942
災害救護事業費	40,814,793
社会活動費	54,772,469
国際活動費	1,847,543
指定事業地方振興費	3,000,000
地区分区交付金支出	33,316,256
社業振興費	51,078,731
基盤整備交付金・補助金支出	14,290,000
積立金支出	214,019,834
総務管理費	76,383,973
資産取得及び資産管理費	11,150,714
本社送納金支出	46,514,629



A 災害救護活動、国際活動等のために
89,176,965円
▶ 災害救護事業費 ▶ 国際活動費 ▶ 本社送納金支出

B 救急法など講習普及、ボランティア活動、青少年赤十字等のために
54,772,469円
▶ 社会活動費

C 医療事業、血液事業、看護師等養成事業
17,290,000円
▶ 指定事業地方振興費 ▶ 基盤整備交付金・補助金支出

D 地域での赤十字活動のために
33,316,256円
▶ 地区分区交付金支出

E 赤十字の広報や普及活動のために
51,078,731円
▶ 社業振興費

F 管理運営のために
214,019,834円
▶ 積立金支出 ※ 本社の規程改定に伴う資金の付替え金額を含みます

G 管理運営のために
76,383,973円
▶ 総務管理費

H 管理運営のために
11,150,714円
▶ 資産取得及び資産管理費

I 翌年度以降の継続事業のために 36,407,182円

皆さまからのあたたかいご寄付によりこれらの赤十字活動を行うことができました。

ご協力ありがとうございました。

日本赤十字社 広島県支部
Japanese Red Cross Society

〒730-0052 広島市中区千田町2丁目5番64号
TEL 082-241-8811　FAX 082-240-2741

ホームページ

https://www.jrc.or.jp/chapter/hiroshima/

X（旧Twitter）

https://x.com/hiroshima_jrc/

Instagram

https://www.instagram.com/nisseki_hiroshima/

Facebook

https://www.facebook.com/redcross.hiroshima/